

# 2025年度 事業報告書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

## 【概況】

すっかり言い古されたようですが、「失われた30年」という言葉が未だに使われているのは、日本経済が長期的低迷から本格的に脱却したと言い難い状況が続いているためと思われます。少なくとも庶民感覚は、そうではないでしょうか。

一方、国際情勢は激動し、日本も少なからぬ影響を受ける中で、その対応に迫られています。非常に困難な課題ですが、守りの姿勢だけではなく解決に向けた積極的な行動も求められています。国内に限っても課題先進国といわれるように、日本は、多くの社会課題を抱えており、それらにどのように取り組み、解決していくかは、世界、とりわけアジアの国々が注目するところでもあります。

一口に社会課題といっても、多様化、複雑化しており、「その解決は官に任せておけばよい」という時代ではなく、産・官・学の協働、連携が求められており、弊会のような公益法人もその一翼を担うことが強く求められています。

東京都市大学の佐藤真久(サトウマサヒサ)教授の言葉をお借りすれば、「すべての問題をつなげて統合的に解決するアプローチ、統合的アプローチと新しい価値を共に創造する価値共創が求められており、そこに、人、組織、活動、しくみとしての『つなぎ役』の機能が期待されています。

弊会では、そのような「つなぎ役」、ビジネス・プロデューサー的な役割を持つ人材を「バリューデザイナー」と呼びたいと考えておりますが、特定少数の人に期待するというよりも、そのような意識と知識、スキルを持った人材を今後多数養成していくことが肝要と捉えています。

補足しますと、ビジネス・プロデューサーとは、社会課題や顧客のニーズを捉え、事業構想を描き、必要なリソースや人材を活用し、収益性や持続可能性などの成果、インパクトの創出に向けて、組織内外の関係者を調整する役割を担う存在です。

また、課題解決手法としてのVEに求められる役割も大きく広がってきており、VEそのものの再定義も必要になってきました。これからのVEは、原価低減技術の範疇に留めておくべきではなく、社会や産業の持続可能性を支える価値創造の方法論として進化させることが求められています。立命館大学の澤口 学 教授の言葉をお借りすれば、「古きを尊びつつ新しきを創る姿勢を堅持し、これまでのVEを超える方法論～バリューメソドロジー (Value Methodology) やバリューデザイン (Value Design) として発展させていかねばなりません。さらにVEの進化と共に、その成果の評価方法、インパクト評価などについても研究していく必要があります。

2025年度に引き続き、新年度も弊会は「社会に新たな価値を生み出し 多くの社会的課題を解決するためにVEを新たなステージへと進めていく」を基本方針とし、「未来の価値を創造するバリューデザイナーの育成」に向けて事業を推進していく所存ですが、弊会自体の持続可能性を維持するための収益増を図りつつも、公益性確保に向けた体制整備、ガバナンス強化等にも努めねばなりません。様々な局面で課題が山積しておりますが、これらの諸課題に対応していくためには、弊会事務局のマンパワーだけでは十分でなく、目的を共有しうる外部組織との連携・協働、コレクティブ・インパクトなども図りつつ、皆様方のご理解と一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

# 1. 公益目的事業

本会の公益目的事業は講座、資格認定、講習、研究開発、表彰の5つで構成されており、それぞれの概況は次の通りである。

## 1-1. 講座

### 1) 事業計画書に記載された事項の取組の説明

① 次世代のVEリーダー育成を目的に、不特定多数の人々を対象としてVEに関する基礎知識を修得していただく講座、及び② 実務でVEを積極活用できる専門家の育成を目的に、VEの基礎知識を有した人を対象としてVEの実践力を修得していただく講座等を行う「バリューデザインスクール」、VEを通じた社会インパクトの創出を促すことを目的に、様々な課題解決にVEを応用したい人々を対象として、VE+αの知識・スキルを修得していただく「バリューデザインアカデミー」等を開催した。

### 2) 公益目的事業のチェックポイントに適合していることの説明

- (1) VEの実践を担える人材及びVE実践の指導者の育成は、VEの深耕・普及を促進し、公正かつ自由な経済活動の活性化と資源の有効活用につながるため、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とし、チラシ及びホームページで公表した。
- (2) 開催予定については、チラシのほか、ホームページでも案内、受講の要件はなく誰でも受講可能としており、受講する機会は一般に開かれているといえる。
- (3) 「VE講座管理運営規程」により講師の要件をCVS又はVES取得者と規定し、理解度テストは講師自身が作成することが規定されているため、確認行為への専門家の適切な関与が担保されている。
- (4) 講師への報酬については「謝金支払規程」に規定（謝金基準表）され、その額は1日（6時間）につき60,000～85,000円で過大とはいえない。”

### 3) 実績

#### (1) バリューデザインスクールのオンライン開催

	3時間で学ぶVEの基本	1日で体験するVEワークショップ	VEの原点的思考（機能分析中心）
開催日	6月13日	6月20日	7月18日
受講者	19名	17名	4名

  

	VE活動で求められるファシリテーションの実践	製品改善ワークショップ	企画段階のVE
開催日	8月1日・6日・26日	8月21日～22日	8月27日
受講者	1名	12名	7名

  

	VEに活かす“数字力”養成	機能の整理法	VEで活用するアイデア発想
開催日	9月11日	9月12日	9月17日
受講者	1名	8名	4名

	開発設計のVE	参加者から情報を導き出す 質問とフレームワーク	VEブラッシュアップ 基本編
開催日	9月24日～25日	9月26日	9月30日
受講者	6名	9名	12名
	ファシリテーション入門	VEブラッシュアップ 短文記述編	VEを組織的に適用する ためのマネジメント
開催日	10月 3日	10月 6日	10月14日
受講者	8名	12名	9名
	「目からウロコ」の 見積業務	VEブラッシュアップ 論述編	製品改善ワークショップ (対面開催)
開催日	10月16日	10月20日	10月22日～23日
受講者	5名	13名	17名
	3時間で学ぶVEの基本	1日で体験する VEワークショップ	VEインストラクター 養成
開催日	11月 7日	11月14日	2月 4日～ 5日
受講者	33名	26名	5名
	改善マインド入門		
開催日	2月 9日		
受講者	(中止)		

(2) 「バリューデザインアカデミー」の開講

① VE講座 (1期生)

	0 Look VE	テアダウン	VEファシリテーション
開催日	4月15日	6月24日	8月 1日・ 6日・26日
受講者	10名	10名	7名・ 7名・ 8名
	総合管理	FAST	意思決定技法
開催日	10月14日	12月 9日	2月16日
受講者	7名	10名	8名

② VE講座 (2期生)

	2 <sup>nd</sup> Look VE	1 <sup>st</sup> Look VE	コストマネジメント
開催日	6月10日	8月 5日	10月 7日
受講者	7名	7名	6名
	CTC	TRIZ	
開催日	12月 5日	2月10日	
受講者	6名	6名	

③ +α講座

	開講式	コンピテンシー	マーケティング
開催日	4月 8日	5月13日	7月 8日
受講者	17名	16名	16名

	コミュニケーション	問いのデザイン	コンサルPJの進め方
開催日	9月 2日	11月 4日	1月13日
受講者	15名	14名	15名

	IE
開催日	3月10日
受講者	16名

#### ④ オープンコンサルティング

	第1回	第2回	第3回
開催日	4月22日	5月27日	6月18日
受講者	17名	14名	14名

	第4回	第5回	第6回
開催日	7月22日	8月19日	9月30日
受講者	14名	13名	15名

	第7回	第8回	第9回
開催日	10月28日	11月18日	12月16日
受講者	13名	13名	12名

	第10回	第11回
開催日	1月27日	2月24日
受講者	12名	11名

### (3) その他研修会等の開催

#### ① バリューデザイン・フォーラム（旧・経営者フォーラム）の開催

	第1回	第2回	第3回
開催日	5月13日	9月 2日	3月17日
会場	アルカディア市ケ谷	アルカディア市ケ谷	アルカディア市ケ谷
テーマ	未来を創る バリュー・デザイナーの育成	構造を設計する力が、 組織を変える	イノベーションの科学 創造する人・破壊される人
参加者	13名	18名	18名

#### ② 通信講座の開講

##### ① VEの基礎

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、VEの基礎を学び、VEリーダー（VEL）資格認定試験の受験資格を取得できる機会を設けること等を目的に開講し、103名が受講。

##### ② はじめての企画・開発メソッド ～ 0 Look / 1st Look VE ～

VEの基礎を学んだ人、VEL有資格者等を対象に、企画・開発業務にVEを活用する方法を学ぶ講座を開講。

③ バリュー・デザイナー育成講座の開講

① CEスマート製品・サービスのライフサイクル設計「バリュー・デザイン」演習の開催

開催日	①10月28日 ④11月28日
	②10月31日 ⑤12月 2日
	③11月21日 ⑥12月12日
受講者	( 中 止 )

② バックキャスト技法体験ワークショップの開催

開催日	11月21日
受講者	5名

④ 開発設計業務でのVE・原価企画等に関する講座のオンデマンド配信

	開発設計業務での コストエンジニアリング	企画・構想段階の 機能と品質の決め方	企画から生産までの 原価企画実務上の留意点
期 間	① 6月 9日～27日 ② 2月 9日～27日	① 6月 9日～27日 ② 2月 9日～27日	① 6月 9日～27日 ② 2月 9日～27日
視聴者	5名	1名	1名

	コストテーブル 作成・活用の体験	DFA（Design For Assembly）体験	Modular Design 実践 手順と活用ツールの体験
期 間	① 9月 8日～26日 ② 1月13日～30日	① 9月 8日～26日 ② 1月13日～30日	① 9月 8日～26日 ② 1月13日～30日
視聴者	1名	3名	1名

⑤ CVS（Certified Value Specialist）によるVE技術者育成支援【「CVSフォーラム委員会」のオンライン開催】

	開催日	出席者	主 な 内 容
第202回	4月21日	6名	①「CVSフォーラム」2024年度総会の振り返り ②2025年度の活動について、など
第203回	5月27日	8名	①2025年度の活動について ②「海の豊かさを守るVEアプローチ」のテキスト等について、など
第204回	6月24日	6名	①『VEチーム活動におけるファシリテーションの有効活用研究会』の概況報告 ②「海の豊かさを守るVEアプローチ」テキスト・解説書等について、など
第205回	7月29日	8名	①『VEチーム活動におけるファシリテーションの有効活用研究会』の概況報告 ②「海の豊かさを守るVEアプローチ」テキスト・解説書等について、など
第206回	8月26日	7名	①『VEチーム活動におけるファシリテーションの有効活用研究会』の概況報告 ②「総合的な学習の時間」応援団のページへの掲載内容の変更について、など
第207回	9月16日	7名	①『VEチーム活動におけるファシリテーションの有効活用研究会』の概況報告 ②「総合的な学習の時間」応援団のページへの掲載内容の変更について、など
第208回	10月 7日	5名	①『VEチーム活動におけるファシリテーションの有効活用研究会』の概況報告 ②『CVSフォーラム』2026年度研究企画の募集について、など
第209回	11月25日	6名	①『CVSフォーラム』2026年度研究企画募集の経過について ② 当委員会での調査・研究テーマについて、など
第210回	12月23日	10名	①『VEチーム活動におけるファシリテーションの有効活用研究会』の概況報告 ②『CVSフォーラム』2026年度研究企画募集の結果について、など
第211回	1月27日	7名	①『VEチーム活動におけるファシリテーションの有効活用研究会』の概況報告 ②『CVSフォーラム』2025年度総会の日時・開催方法等について、など

⑤ CVSによるVE技術者育成支援【「CVSフォーラム委員会」のオンライン開催】（つづき）

	開催日	出席者	主 な 内 容
第212回	2月17日	6名	① Value Methodology についての勉強の進め方等の検討 ② 『CVSフォーラム』2025年度総会の内容・プログラム等について、など
総 会	3月26日	21名	① 新CVSの挨拶、出席者の近況報告 ② ファシリテーションのやり方についての情報共有、など

⑥ 教育機関におけるVE導入促進と普及

- ① 立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科主催の課題解決型長期企業実習「プラクティカム」に協力団体として登録。
- ② 同研究科の大学院生に管理技術による改善指導の手法を学習する機会を本会中国統括事務所の協力を得て提供。
- ③ 1月30日に成果発表会を開催して終了。

## 1-2. 資格認定

### 1) 事業計画書に記載された事項の取組の説明

企業・団体等の組織でVE活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「VEL」資格、社内でVE基礎研修の講師を務めるために必要な知識及びスキルを修得していると認められたVEL有資格者に授与される「VEインストラクター（VEI）」資格、責任者・担当者としてVE活動の実施・推進の任に就くVE専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「VES」資格、VEに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「CVS」資格の認定を行った。

### 2) 公益目的事業のチェックポイントに適合していることの説明

- (1) VEの実践を担える人材及びVE実践の指導者の育成は、VEの深耕・普及を促進し、公正かつ自由な経済活動の活性化と資源の有効活用につながるため、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とし、受験案内及びホームページで公表した。
- (2) 各試験とも認定基準は試験における7割以上の得点であり、ホームページ又は試験実施要領等で公開した。また、要求項目・レベルを資格ごとに明確にした知識領域及びスキル領域を作成し、ホームページで公表した。
- (3) 試験実施要領・受験資格に関する説明はホームページ等に掲載され、受験資格を満たせば誰でも受験可能で、資格付与の機会是一般に開かれているといえる。なお、受験資格として既取得の資格や実務経験等が要求されているが、合格者の質を維持するために必要であり、合理的であると認識している。
- (4) 審査は資格認定部会で「資格認定部会規程」及び「資格称号付与に関する規程」の定めにもとづき行われ、匿名によって実施するとともに受験者と利害関係にある委員を審査から排除することや、部会出席委員の過半数をもって可否を決めることで公平性を確保した。
- (5) 資格認定部会の委員の要件として学識経験者であることが「資格認定部会規程」によって求められており、専門家の適切な関与が担保されている。

### 3) 実績

#### (1) 資格認定制度の整備・体系化

- ① 日本におけるCVS資格認定制度が一部改定されたことを受けて、CVS認定試験実施要領及び再認定申請要領の一部改定も実施。
- ② 制度改定を受け、日本でもCVS-Life制度を米国VE協会と同様に運営するための対応と準備、交渉を実施。
- ③ 米国VE協会が今後予定しているCVS資格認定制度改定への対応について継続して検討しており、必要な事項については米国VE協会との交渉・調整も実施。
- ④ 国際資格に相応しい制度運営を目的としたCVS資格認定制度改定と、CVS資格認定制度の運営を今後さらに米国VE協会へと近づけるための検討を継続して実施。

#### (2) 資格認定試験の実施

試験名	実施日	会場	受験者	合格者
第58回 V E L 認定試験（前期）	4月18日 ～ 7月31日	全国約200箇所	650名	506名
第59回 V E L 認定試験（後期）	9月 1日 ～ 2月28日	〃	1,630名	1,186名
合 計			2,280名	1,692名
第 3 回 V E I 認定試験	2月 6日 ～ 3月16日	—	5名	5名
第28回 V E S 認定試験	12月 6日	東京・名古屋・大阪	34名	29名
第46回 C V S 認定試験	11月15日	東京	7名	6名

※ V E L 認定試験については、上記試験のほか、中国において30名が受験し合格。

※ V E S 認定試験については、上記試験のほか、出張開催により4名が受験し合格。

#### (3) 「バリュー・エンジニアリング（VE）」誌の編集・発行・配信

##### ① 「VE誌編集委員会」のオンライン開催

	開催日	出席者	主な内容
第96回	7月18日	8名	① 2025年度前半のVE誌編集実績の報告 ② 2025年度後半の企画について、など
第97回	1月22日	8名	① 2025年度後半のVE誌編集実績の報告 ② 2026年度の企画について ③ その他の掲載アイデア・提案について

##### ② VE誌の発行・配信

第329号	第330号	第331号	第332号
5月 1日	8月 1日	11月 1日	2月 1日

#### (4) 更新登録の実施

VEL・VES・CVS登録者の更新登録及び終身登録、移行登録を実施。

## 1-3. 講 習

### 1) 事業計画書に記載された事項の取組の説明

VE活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、VEに興味がある人やVEL等の有資格者、学生等を対象とした「バリュー・カンファレンス（VE全国大会）」、VE関西大会等の「地域VE大会」、「VEフォーラム」を開催した。

### 2) 公益目的事業のチェックポイントに適合していることの説明

- (1) VE活動推進の参考になるヒントやノウハウ、さまざまな関連情報の提供を一般の学生や社会人に広く行うことを目的とし、チラシ及びホームページで公表した。
- (2) 開催予定についてはチラシのほか、ホームページでも案内し、特に参加資格は設けておらず誰でも参加可能であり、参加の機会は一般に開かれているといえる。
- (3) VEに関する知識の普及を広く行うためのセミナーであるため、確認行為は特に行わなかった。
- (4) 講師等への報酬については「謝金支払規程」に規定（謝金基準表）され、その額は1講演（1～2時間）につき20,000～300,000円である。

### 3) 実 績

#### (1) 「バリュー・カンファレンス2025／第58回VE全国大会」の開催

対面開催	10月10日 於・豊洲IHIビル
配信期間	11月 1日～30日【30日間】
内 容	協会顕彰表彰式、講演3件、VE活動優秀賞受賞報告1件、VE活動奨励賞受賞報告2件、VE実践論文5件、VE活用事例5件、特別報告10件

#### (2) 地域VE大会の開催（西日本支部 関西地区、中四国・九州地区）

	第57回 VE関西大会	第68回 VE西日本大会
開催日	2月20日	9月26日
会 場	会場とオンラインの同時開催	オンライン開催
参加者	89名	36名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 講演 2件</li> <li>➢ 事例紹介 3件</li> <li>➢ パネルディスカッション 1件</li> <li>➢ 過去講演紹介 5件</li> <li>➢ 過去事例紹介 10件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 講演 2件</li> <li>➢ 事例紹介 3件</li> </ul>
オンデマンド配信	3月 2日～16日	10月 6日～20日

(3) VEフォーラムのオンライン開催（西日本支部 関西地区）

	VEスプリングフォーラム	VEサマーフォーラム
開催日	5月15日	8月28日
会場	会場とオンラインの 同時開催	会場とオンラインの 同時開催
参加者	87名	88名
内容	> 講演 1件 > 事例紹介 3件 > パネルディスカッション 1件	> 講演 1件 > 事例紹介 5件
オンデマンド 配信	6月 2日～16日	9月 8日～22日

## 1-4. 研究開発

### 1) 事業計画書に記載された事項の取組の説明

日本とウズベキスタンの教育協力を通じた次世代PBL（Project Based Learning）モデルの設計を目的に、学識経験者がシステムデザイン思考型メソッドの大学教育への適用とその影響の調査・研究を行う等の「開発研究会」、実務で展開するためにVEの導入や水平展開を模索している人がVE推進や実践上の課題等について研究を行うVE推進部会等の「機能別部会」、2時間VE手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連分野のVE入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部・建設VE研究会等の「専門研究会」を設置した。

### 2) 公益目的事業のチェックポイントに適合していることの説明

- (1) VEを効果的に活用するための組織体制の枠組みや技術・ツールを研究開発することはVEの深耕・普及を促進し、公正かつ自由な経済活動の活性化と資源の有効活用につながるため、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とし、ホームページで公表した。
- (2) 研究の成果は、レポート等の概要をホームページ・チラシで公表し、配付（一般は1,000円～2,000円実費負担）するか、VE大会等の中で発表された。なお、研究成果の公表については「研究開発事業管理・運営規程」によって定められており、担保されている。また、研究成果についての外部からの問い合わせには本部で対応し、資料の送付等を行った。
- (3) 各研究開発プロジェクトのメンバーについても「研究開発事業管理・運営規程」によって定められており、専門家の適切な関与が担保されている。
- (4) 研究開発についての外部委託は全く行われなかった。

### 3) 実績

#### (1) 「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

##### ① 日本・ウズベキスタン共同による次世代PBL（Project Based Learning）モデルの設計

	開催日	出席者	主な内容
第5回	4月22日	4名	① タシケントでのPBLワークショップ計画 ② 研究費申請審査結果の共有
第6回	6月12日	3名	① 学会発表の分担について ② タシケントの大学との提携について ③ 海外の研究機関との共同研究について

① 日本・ウズベキスタン共同による次世代PBLモデルの設計（つづき）

	開催日	出席者	主 な 内 容
第7回	7月3日	2名	① アンケート分析結果の確認 ② 論文発表先の検討
第8回	7月22日	4名	① 論文分担状況の確認 ② タシケントでの大学訪問について
第9回	7月31日	5名	① アンケート分析結果の共有 ② タシケントでの大学訪問について
—	10月	タシケントのUMFT (University of Management and Future Technology) を訪問	
—	11月	APIEMS (Asia Pacific Industrial Engineering and Management Society) 2025 (杭州) にて論文発表、Excellent Paper Award を受賞	
—	12月	AHFE (The Applied Human Factors and Ergonomics) 2025 International Conference (Hawaii) にて論文発表	

② VE国際大会への参加による、海外諸国研究動向についての情報収集

- ① 9月15日～16日、インド・ニューデリーで開催された米国VE協会年次大会「2025 SAVE Value Summit」に参加。米国、インド、韓国、ドイツをはじめとする各国VE関係者と交流し、情報を収集。また、現在進行中のSAVE資格認定制度改定に関する折衝や、アジア諸国でVE普及を推進するための意見交換も実施。
- ② 同大会の参加報告をVE誌332号（2026年2月号）に掲載。

(2) 各支部での実務的研究の推進

① 機能別部会での研究活動

- ① 東日本支部に次の機能別部会を設置し、実務的な研究活動を対面とオンラインのハイブリッド型で推進。

部会名	メンバー	主 な 内 容
VE情報交流部会	12名	初めて部会活動に参加する人を対象とし、VEの推進組織や教育体制などについて広く情報交換を行う場。
VE推進部会	32名	VE推進上の課題について参加各社のノウハウをもとにした成功のためのポイントについての研究。
マーケティング部会	6名	マーケティング手法の理解や新たな価値を創造するためのツール開発と検証。
R&D部会	21名	価値を創造する手法としてVE手法を進化させるための関連手法を含めた探究と研究開発。
ものづくり部会	22名	独自技術をもつ企業の工場見学を通して、ものづくりの最新動向や本質を学ぶ。
資材調達部会	22名	調達全般についての問題提起と情報交換を行い、VEの活用と業務上の課題解決につなげる。
社会インフラ部会	14名	「企業ケース検討会」と「建設VE研究会」による社会インフラに関わる研究。

② 活動報告会の開催

上記部会の活動報告会を、一般を含むメンバー外に対象を広げてオンラインで開催し、各部会での取り組み内容や活動成果の一端を紹介。

開催日	3月3日
参加者	124名
内 容	部会の活動報告、特別発表

## ② 専門研究会での研究活動

西日本支部（東海地区・関西地区）に次の専門研究会を設置し、実務的な研究活動を推進。

### ① 東海地区

研究会名	メンバー	主な内容
中部・建設VE研究会	16名	地域の実情にマッチした建設VEのあり方と「2時間VE手法」のオンラインでの活用方法の検討。

### ② 関西地区

研究会名	メンバー	主な内容
経営革新を生み出す 生き生きVE研究会	91名	各社のVE推進や実践方法等の情報をもとにした、VEの効果的な普及方法と活用策。
VEツール研究会	27名	ソフトVE等、過去に開発されたVE手法の見直しと実践。
サービス領域での VE適用方法研究会	9名	第3次産業での共通領域であるサービス領域において効果的にVE活動を進める方法。
原価企画の問題解決 研究会	14名	原価企画推進上の問題の解決策。
テアダウン研究会	20名	テアダウン法の活用法。

## 1-5. 表彰

### 1) 事業計画書に記載された事項の取組の説明

定期的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等におけるVE活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、VE技術水準の向上とVE活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「VE実践論文」の審査及び表彰を行った。

### 2) 公益目的事業のチェックポイントに適合していることの説明

- (1) 資源の有効活用による持続可能で豊かな社会の実現に向けてのVE活用の奨励を目的とし、ホームページで公表した。授賞対象の団体又は個人は会員に限らないということを案内書やホームページなどで明らかにし、応募・推薦を受けて選考した。
- (2) 協会顕彰においては「顕彰規程」「表彰に関する一般基準」「VE活動優秀賞の事前評価項目と基準」、VE実践論文においては「実践論文表彰規程」「論文審査部会運営規約」「VE実践論文の事前評価項目と基準」で選考の手續・基準を明確にし、また選考にあたって応募者と利害関係者のある審査員はその審査から外れることとしている。
- (3) 「顕彰規程」「実践論文表彰規程」により、選考にあたる委員の要件を学識経験者もしくはCVSを有する実務経験者と定めており、専門家の適切な関与が担保されている。
- (4) VE全国大会（参加者はホームページ・チラシで募集）で授賞式を実施し、受賞者を発表した。また、ホームページ等でも受賞者・受賞理由を公表した。
- (5) 審査料を設けている賞については全て、応募組織へ一律に求めた。

### 3) 実績

#### 1) 協会顕彰の実施

##### (1) 「審査・認定委員会 顕彰審査部会」の開催

	開催日	出席者	主な内容
第1回	書面表決	4名	① 協会顕彰（VE活動優秀賞）の審査 ② 協会顕彰（VE経営者賞・VE功労賞・普及功労賞）の審査 ③ 協会顕彰（VE活動奨励賞）の審査

##### (2) 受賞者及び受賞企業の表彰

次の各賞の表彰を「VALUE CONFERENCE 2025／第58回VE全国大会」で実施。

VE経営者賞	① 寺山 徹 氏	首都高速道路(株) 代表取締役社長
VE功労賞	① 田中 清吾 氏	公認会計士、本会監事
普及功労賞	① 有村 利信 氏	(株)IHI 技術開発本部 技監 兼 ものづくりシステム変革本部 技監
	② 伊藤 学 氏	東京ガス(株) 資材部 調達企画グループ チームリーダー
	③ 久保田修司 氏	(株)フジタ 品質・環境本部 VE推進部長
	④ 軸丸 宏之 氏	三菱電機(株) コミュニケーションネットワーク製作所 資材部
	⑤ 清水 弘幸 氏	アットマーク・コンサルティング合同会社 社長
	⑥ 中島 康博 氏	三菱電機(株) 名古屋製作所 資材部 計画課
	⑦ 渡邊 昌俊 氏	エトリア(株) 購買品質本部 購買・原価統括センター 原価戦略室
VE活動優秀賞	① 三菱重工機械システム(株) 印刷紙工機械事業本部 殿	
VE活動奨励賞	① 須山建設(株) 殿	
	② (株)バリューメイク 殿	

#### 2) VE実践論文の審査

##### (1) 「審査・認定委員会 論文審査部会」の開催

	開催日	出席者	主な内容
第1回	6月23日	8名	① 応募論文の審査、など
第2回	8月26日	6名	① 修正論文の審査、など

##### (2) 入選論文の発表・表彰

次の論文の発表を「VALUE CONFERENCE 2025／第58回VE全国大会」で実施。

入選論文	① 岩橋 正樹 氏	三菱電機(株)
	② 神木 剛 氏 他	首都高速道路(株)
	③ 高島ひかる 氏 他	(株)タクミナ
	④ 藤本 直樹 氏 他	日本電子(株)

## 2. 収益事業

### 2-1. 情報資料

#### 1) 研究成果の資料化

- ① VE特別資料「ディライト品質を探求する発想法」（東日本支部 R&D部会） 7月10日 発行
- ② VE特別資料「FASTダイアグラムの活用研修テキスト」（西日本支部 VEツール研究会） 3月22日 発行

#### 2) VE関連資料の発行及びVE教材等の販売

- (1) 「VALUE CONFERENCE 2025（第58回VE全国大会）」VE実践論文集及び資料集（電子版） 11月1日 発行
- (2) ワークシートやアイデア発想ラベル・機能定義カード、VELバッジ等、VEの実施や推進のためのアイテムを販売。

#### 3) VEテキスト・関連資料等の翻訳・発行

現在進行中のSAVE資格認定制度改定対応の一環として、米国VE協会の標準テキストである『VM Guide』の日本語訳を作成し、2026年度初旬に発行の予定。

#### 4) VE関連書籍・資料・教材等の販売

VEの学習及び研究、普及促進に資するため、新・VEの基本等のVE関連書籍を仕入れて販売し、また本会が発行するVE関連資料・教材等を販売。

#### 5) VE研究論文等のネット販売

電子化した過去のVE研究論文及びVE実践論文を協会Web Site内に開設したVE研究論文検索・購入サイト「VE論文navi」で販売。

### 2-2. VE活用支援

#### 1) 日本国内における出前講座・オンライン講座の実施

No.	開催日	受講者	内容
1	5月12日・26日	31名	VEの基礎
2	5月14日・22日・28日・6月2日	41名	VEの基礎
3	5月20日～21日	23名	VEの基礎
4	5月30日	12名	VEの基礎（オンライン開催）
5	6月3日～4日	36名	VEの基礎（ハイブリッド開催）
6	6月25日～26日	16名	VEの基礎（オリジナルプログラム）
7	6月25日～26日	18名	VEの基礎
8	7月17日～18日	24名	VEの基礎
9	8月20日～21日	25名	VEの基礎
10	8月27日～28日	24名	VEの基礎（ハイブリッド開催）

### 1) 日本国内における出前講座・オンライン講座の実施（つづき）

No.	開催日	受講者	内 容
11	9月 1日～ 2日	16名	VEの基礎（オンライン開催）
12	9月 1日～ 2日	6名	設計VE
13	9月 2日	10名	管理技術入門
14	9月10日～11日	4名	VEの基礎
15	10月 7日～ 8日	14名	VEの基礎
16	10月 9日～10日	25名	VEの基礎
17	10月15日～16日	30名	VEの基礎（ハイブリッド開催）
18	10月15日～16日	18名	VEの基礎
19	10月23日～24日	20名	VEの基礎
20	11月 6日～ 7日	17名	VEの基礎
21	11月27日	11名	原価企画（オンライン開催）
22	11月27日～28日	28名	VEの基礎
23	12月16日	12名	企画段階のVE
24	1月16日	31名	改善マインド入門
25	1月19日～20日	18名	VEの基礎（オンライン開催）
26	1月21日	30名	改善マインド入門
27	1月22日	30名	改善マインド入門
28	1月22日～23日	23名	VEの基礎
29	2月 4日～ 5日	16名	VEの基礎
30	2月 4日～ 6日	24名	資材VE
31	2月24日～25日	24名	VEの基礎

### 2) 日本国内における指導講師の派遣

依頼に応じて3社にVE指導講師を派遣し、VE実践の個別指導を実施。

### 3) 海外でのVE教育支援

- (1) 本会中国統括事務所を通じて、中国の自動車関連メーカーに、VEとテアダウンの複数のプロジェクトを実践指導。
- (2) インドのVE専門家が農村地域の開発にVEを適用したSCRプロジェクトについて、日本のCVSがアドバイザーとして協力。同プロジェクトは、「2025 SAVE Value Summit」において優秀プロジェクトとして表彰。
- (3) 米国VE協会の関連団体として大学・高等教育機関へのVE教育を推進する「マイルズ・バリュー財団」のオンラインセミナー「MVFEducation Forum」を共催。米国、カナダ、インド、アジア・中東諸国から約30名が参加。

### 4) VEワークショップ・セミナー（48時間以上）の再認定

VEワークショップ・セミナー2件の再認定を実施。

## 3. その他の事業

### 3-1. 会員相互研鑽

#### 1) 工場見学会の開催（西日本支部 中四国・九州地区）

開催日	6月20日	3月12日
会場	西部電機株式会社 本社工場	株式会社安川電機 本社工場
参加者	7名	7名

## 4. 広報活動

#### 1) メールマガジンによる情報発信

- (1) メールマガジン「VE情報メール」を毎月1回発行し、VEや本会に関する最新情報を積極的に発信。また、VE大会・VEフォーラム等の案内や参加者募集などPRにも積極的に利用。
- (2) バリューデザインアカデミーの次期受講生募集や関連ミニセミナー案内のため、「VDAメルマガ」を不定期に発信。

#### 2) 協会Web Site等による情報発信

- (1) 協会Web Siteを運営し、VEや本会に関する最新情報を積極的かつタイムリーに発信。
- (2) VEの認知度向上、既存の会員・VE資格者以外の層へのリーチを目的に、バリューデザインアカデミーのFacebookページを開設し、Meta 広告等を通じた幅広い情報発信の施策を開始。

#### 3) インフラメンテナンス国民会議への参加

国が支援し、自治体、企業、研究機関、NPO等で構成されているインフラメンテナンス国民会議に会員として参加し、社会資本の維持管理に関する情報を収集。

#### 4) 他団体との連携による広報

VE大会及びVEフォーラムの開催にあたり、次の団体から後援及びPR支援をいただいた。

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| ① 日本インダストリアル・エンジニアリング協会 | ④ 公益社団法人大阪府工業協会 |
| ② NPO法人日本TRIZ協会         | ⑤ 公益社団法人京都工業会   |
| ③ 一般社団法人日本システムデザイン学会    | ⑥ 公益社団法人兵庫工業会   |

#### 5) 国際交流

- (1) サウジアラビア公共分野（SPS）でのVE適用について評価を行うため、他国での事例等から得られる改善方法をSPSに適用する目的で、サウジアラビアのウム・アル・クラ大学工学・建築学部の准教授が専門家として来会。日本でのVE適用アプローチや標準ガイド、社会インフラ分野における事例等を紹介し、情報交流。
- (2) ベトナムユネスコ協会（VFUA）からの依頼を受けてVFUA・NFUAJ・SJVE国際カンファレンスの日本での開催を支援し、同カンファレンスでの日本側の講演者を担当。

## 5. 会 議

### 1) 定時総会の開催

開催日	6月11日
出席者	68名
議案	① 2024年度計算書類の承認 ② 理事の選任

### 2) 理事会の開催

	開催日	出席者	主な内容
第49回	5月13日	10名	① 代表理事（会長）・業務執行理事の業務執行状況報告 ② 2024年度の事業報告書及び計算書類について ③ 第15期定時総会の招集について、など
第50回	（決議の省略）		① 常任理事の選任 ② 支部長の委嘱 ③ 2025年度収支予算の補正
第51回	9月2日	11名	① 代表理事（会長）・業務執行理事の業務執行状況報告 ② 2025年度顕彰者の決定 ③ 外部組織との連携促進について、など
第52回	（決議の省略）		① 委員会組織の改編について
第53回	3月17日	11名	① 代表理事（会長）・業務執行理事の業務執行状況報告 ② 2026年度の事業及び収支予算について ③ 2026年度の資金調達及び設備投資について、など

### 3) 「本部企画委員会」のオンライン開催

	開催日	出席者	主な内容
第53回	3月5日	4名	① 各支部・各委員会の2025年度概況と2026年度予定について ② 本会の今後の課題と基本方針、2026年度重点課題について

## 6. 会員数の異動

		会員数		入会	退会	増減
		2025年 4月1日	2026年 3月31日			
正会員	団体	59	57	1	3	-2
	個人	29	26	2	5	-3
賛助会員	団体	78	73	4	9	-5
	個人	77	72	7	12	-5
合計		243	228	14	29	-15

## 7. 本会の運営体制の充実をはかるための取組

- 1) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制の整備
  - (1) 「文書取り扱い内規」を制定し、理事の職務執行に関する文書については適切に保存・管理できるようにしている。
- 2) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の整備
  - (1) 定款及び「理事会運営規程」にもとづいて理事会を毎事業年度3回以上開催しているほか、必要に応じて臨時の理事会を開催できるようにしている。
  - (2) 「職務権限規程」を制定し、各理事の分掌事項と職務権限を明確に定めている。
- 3) 職員の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制の整備
  - (1) 「コンプライアンス規程」を制定し、法令等の遵守を徹底して事業活動の公正かつ適正な運営を確保できるようにしている。
- 4) 理事及び職員が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制の整備
  - (1) 「監事監査規程」を制定し、本会に著しい損害が発生するおそれのある事実を理事が発見した時はその報告を監事が受けることとしているほか、事業についての報告を理事及び職員にいつでも求めることができるようにしている。
- 5) 監事の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項の整備
  - (1) 「監事監査規程」を制定し、職務執行のため必要と認めた費用を監事が本会に請求できるようにしている。
- 6) その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制の整備
  - (1) 「監事監査規程」を制定し、監事が総会、理事会及びその他の重要な会議に出席し、必要があると認めた時に意見を述べることとしているほか、理事及び職員の重大な法令・定款違反並びに不正行為を認めた場合に理事会を自ら招集できるようにしている。

## 8. 2025年度 事業報告 附属明細書

2025年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業活動の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書は作成していない。

以上